

はじめに

私たちの住まいは、戦後の工業化社会の進展と経済成長にともなう都市および近郊への人口の集中化により大きく変貌しました。特に木造住宅は工業化による技術革新や合理的生産システムが進み、規格化・量産化によるモジュラーコーディネーションをはじめ、各種の新建材・建設資材等の製品開発とともに、ハウスメーカーや不動産業による戸建て分譲住宅、工業化住宅等が全国的に展開され住宅市場に提供されてきました。

一方、新築住宅市場から既存の戸建住宅群に目を転じると、築年代が異なる相当数の木造の住宅ストックがあります。これらの住宅の多くは、敷地条件、建築工法、規模、建材、性能、経年劣化などが異なり一律ではありません。また開発が及ばない農村部と市街地や住宅密集地とでは、立地環境にかなりの相違もあり、自然度や外気温も地域格差があります。これらの要素は住まいのエネルギー消費にも関係しています。

本書の主題は「伝統工法を継承するリフォーム」です。したがって、既存住宅の中でも築年代がかなり古い住まいを主たる対象としました。それらは、一般的に「古民家」と呼ばれています。

現在でも非都市部には多くの「伝統民家／古民家」が住まいとして使われていますが、生活スタイルや家族構成も変化し、また家屋の老朽化に伴う不具合や熱環境の制御などの課題もあり、住み継いでゆくための改善手法、解決策が求められています。エコ環境を志向し、省エネルギー化の時代の流れの中で、「伝統民家／古民家」は自然素材でつくられた環境共生型の建築として評価すべき技法や素材や知見が集積しています。今日では新たに建造することもない土蔵等は、優れた耐朽性、耐火・断熱性を備えた集積の証です。

伝統工法は、永い技術進化の歴史の中で育まれた比類なき築造術と考えられます。そしてその築造術から生まれた木造民家は、実は長寿命、高耐久であり、さらに美が宿る住まいであることも確かなようです。それは現代に残された数々の優れた民家事例や多くの人々が歴史的な町並に魅せられ、訪れることから確認できます。同時にそれらは職人衆の優れた手仕事の結実です。リフォーム工事はそれらの住まいを決してぞんざいに扱うことなく、永く親しみ継承してゆく手立てが欠かせません。

本書は、伝統工法がもつ特質を検証し、従来のリフォームの枠組みにとどまらず、古民家の価値を増幅する「リ・アップ（RE-UP）」の考え方でアプローチしています。リフォームを通じて、伝統民家がもつ輝きを、現代と次世代の社会と住み手のために贈り届けたいと願っています。

本書は、以上のような視点に立って、計画手法や設計・施工上の指針・基準づくりを目指したものです。

最後になりましたが、本事業が国土交通省による平成25年度リフォーム担い手支援事業の補助対象として採択されたことに対し、深く感謝の意を申し上げます。

一般社団法人 千葉県古民家再生協会
理事長 高野祐之